

<校訓>  
高志共生

大庄中通信

大庄中学校  
H25年度第17号  
(H25.11.27・水)

## テスト勉強のポイント 第3章

1・2年生は今日から2学期の期末テストが始まりました(3年生は今日までですが…)

通知表の評価は、絶対評価です。少しでもたくさんの人に高得点を取ってもらいたくて、昨年「テスト勉強のポイント」を2回ほどお知らせしましたが、少しは参考にしてもらえたかな…?

### これまでのポイントのおさらい

(1) 計画を立ててテスト勉強に取り組む (2) 傾向をつかみ対策を立てる (3) 理解する→覚える→問題を解いてみる (4) 勉強を習慣にする…習うより慣れろ (5) 丸「暗記」ではなく「理解」して頭に入れる などが、これまでの学校だよりで紹介してきた「テスト勉強のポイント」です。今回は、テスト勉強全般に共通する原則・基本や注意点、無駄なテスト勉強法などをお知らせします。

### ノートの書き写しや問題の( )埋めだけでは…時間の無駄

ほとんどの教科では、テスト当日やテスト後に、学校で使っている問題集やプリントの提出が求められます。これは、どんなことがあっても、きちんとやって期限までに提出するべきです。提出物が評価に占める比重はかなり大きいので、とても大切なことです。

しかし、案外と多くの人がやってしまう勘違いなのですが、ノートを書き写すだけや問題集やプリントの答えを埋めるだけの勉強は、たくさん時間をかけても、ほとんど効果がありません。それは、作業と記憶は違うからです。小学生のとき、「漢字の書き取りを20回やったけど翌日のテストのときには全然覚えてなかった」という経験はありませんか?あれと一緒にです。書き写しは作業であり記憶ではありません。記憶をするには、授業で先生が強調したところを集中して聞く、問題を解くというように、頭を使うことが必要です。ノートを書き写すだけなら、考えなくてもできます。人間の脳は、考えなくてもできる作業では、自然と記憶をしないようにできています。ですから、2回書き写しても、10回書き写しても、100回書き写しても時間の無駄なだけです。

### これも間違った勉強法

さらに、別の間違ったテスト勉強として、(1) 教科書やノートを見ているだけ (2) できそうな問題はやらない (3) できる問題だけ解いて、わからない問題はやらない といった勉強をする人がいます。テスト勉強の目的は、一問一問問題を解いて、できる問題を増やしていくことです。問題を解いているうちに、どこがどんなふうに出題されるのかもわかるようになります。教科書に書いてあることを全部覚えるのは無理ですし、授業で説明を聞いただけで授業内容を覚えるのも無理です。何をどんなふう勉強すればテストで点数が取れるかを考え、効率良く覚える必要があります。そのためには「先生が強調したことをちゃんと聞いてメモを取る」ことだけでなく家庭学習で「問題を解く」ことが必要になります。



## テスト勉強に共通するポイント

(1) 要点の整理・確認・まとめをする

テスト範囲が発表されて最初に取りかかるのが、各教科の要点の整理・確認・まとめ・暗記といった勉強です。このとき、ノートの整理もすることになりますが、マーカーや色鉛筆などをたっぷり使ってキレイなノートを作ることに時間をかけていたり、ノートを書き写すだけの勉強はほとんど効果がありません。大切なことは、自分は、どこがわかっていてどこがわかっていないのかを確認し、わかっていることを増やすことです。その中で、覚える(記憶する)べきことがあれば、覚えるまで繰り返すという必要性も出てきます。ただし、これは、あまり早い時期にやり過ぎてテスト当日に忘れてしまっはけませんので、それに取り組む時期を考える必要があります。

(2) 問題練習に取り組む

次に、問題に挑戦しなければいけません。当たり前ですが、テストには問題が出ます。問題で問われていることについて、自分の頭にある知識を使って答えを書くことが求められます。教科書を読んだり、ノートに書き写すことができるだけでは、正解を書けるようになりません。ですから、問題練習をする必要があります。

その第1歩は、教科書にある問題、学校で配られたプリントや問題集の基本問題を確実に解けるようにすることです。ほとんどの教科書や問題集は、単元ごとに基本問題→発展問題という構成になっています。だからといって、テスト範囲の最初のページから順番に問題を解いていくと、基本問題を終えた後すぐに、その単元の発展問題に取り組むことになります。これは間違いです。難しい問題でもスラスラ解ける人はそれでも良いのですが、ほとんどの人は、なかなか発展問題は解けません。ですから、最初は、まず基本問題を確実に解けるようにします。そして、テスト範囲の一通りの基本問題ができるようになってきたら、発展問題に挑戦します。もし、基本問題がなかなか解けないようならば、(1) 問題の解説や教科書を見て、問題の解き方を考えてみる。(2) それでも、問題の解き方がわからないときは、家の人、学校の先生、友達などに解き方を聞く。(3) 問題の解き方がわかったら、要点やコツをノートに整理して書き残しておく、といった方法を試してみるといいでしょう。

基本問題は、テスト範囲の要点がわかっているかを確認するための問題です。ですから、基本問題は、できるようになるまで繰り返して解く必要があります。できない問題をそのままにしておいてはいけません。テスト勉強は、できない問題をできる問題に変える勉強です。

数学などの問題練習をするときの方法をまとめておきます。(1) わからない問題も必ず答えを書き、正解には○、間違えたところには×をつける(△はつけないで、×にする)。間違えたところには、すぐ正解を書き写すのではなく、間違えた問題の解説を読む。(2) もう一度、自力で問題を解いてみる。その際、問題集の前回×だった問題だけ再び解く。前回の答えは消さないで、その横とか上に新しい答えを書いて、解いたら同じように採点し解説を読む。(3) もう一度、自力で問題を解く。やはり2回目に×だったところだけを解く。解いたら同じように採点し解説を読む。(4) 最後まで×だった問題は、なぜそうなるのか教科書・ノート等で調べる。自分で調べたり、考えてもわからなければ、先生や家の人などに聞く。社会や理科などの暗記が求められる教科でも、問題練習は自分の覚えていないところの確認が必要です。

このように、効果のあがるテスト勉強で、定期テストに挑戦してほしいと思います。そして、学年の得点ごとの人数分布の山が高い得点のところに来ることを期待しています。(文責:校長 福井 隆夫)

